

第2回西成特区構想有識者座談会 議事録

日 時 平成24年7月3日（月）午後7時～午後9時

場 所 西成区役所 4階会議室

○事務局 大変長らくお待たせをいたしております。

少し時間が過ぎているんですけども、ただいまから西成特区構想有識者座談会の第2回目の会議を開催させていただきます。

本日、司会進行を務めさせていただきます総合企画担当課長、柴生と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

一般の傍聴の方が今回から入っていただくということで、初めての試みになります。前はプレスの方のみの公開でございましたので、一般の方へのご紹介ということもありますので、冒頭に委員の先生方にそれぞれ自己紹介を賜りたいと思っております。

鈴木座長のほうから、よろしくお願いいたします。

○鈴木座長 大阪市の特別顧問をしております、学習院大学の教授をしております鈴木と申します。この有識者会議の座長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○水内委員 大阪市立大学の水内と申します。一応、副座長ということで、担当させていただきますので、よろしくお願いいたします。

○ありむら委員 釜ヶ崎のまち再生フォーラムの事務局長をやっておりますありむら潜と申します。よろしくお願いいたします。

○織田委員 社会福祉法人大阪自彊館あいりん相談室室長の織田と申します。よろしくお願いいたします。

○原委員 医療福祉を中心に仕事をしておりますジャーナリストの原昌平と申します。よろしくお願いいたします。

○福原委員 大阪市立大学の福原宏幸と申します。労働問題を専門にしております、今回は日雇い労働のこととか、西成労働福祉センターのこと等を担当します。よろしくお願いいたします。

○寺川委員 近畿大学の寺川と申します。よろしくお願いいたします。専門はまちづくりとハウジング、地域計画ですけども、きょうは「萩之茶屋地域のまちづくり活動にみる『西

成特区構想』に対する提案」ということで、特に（仮称）萩之茶屋まちづくり拡大会議の提案についてご報告をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○松村委員 阪南大学国際観光学部の松村と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局 どうもありがとうございました。

ここでご紹介をさせていただきます。今は非常勤嘱託職員という立場でございますけれども、8月1日から公募の区長ということで、区長就任のご予定になってございます臣永さんにお越しいただいておりますので、一言ごあいさつと自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○臣永次期区長 皆さん、こんばんは。ご紹介いただきました8月1日に着任予定の臣永正廣と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

今日はこういう場に出席をさせていただきまして、先ほど鈴木座長さんのご案内もいただいて、20年ぶりにあいりん地区に行って参りました。随分様変わりをしたなというふうに改めて思っている次第です。大変課題もありますけれども、魅力的なまちだと思いますし、今日、ご出席いただきました市民の皆様方、そして地元選出の議員の皆様方のご指導をいただきながら、8月1日から初心者マーク、若葉マークの区長ではなく、実践に即して、そして橋下市長から、とにかく24区が競争して光り輝くようになりなさいと、現場の区長として最前線で市民の皆様と接して、それを市全体の行政、まちづくりに反映させるようにということでご指示をいただきました。私が仕えるのは西成区民の皆様と橋下市長であります。どうぞ今後ともご指導いただきながら、精いっぱい頑張っておりますので、よろしくお願いいたします。

○事務局 どうもありがとうございます。

それでは、早速、議事の進行のほうに参りたいと思いますので、以後の進行は座長、よろしくお願いいたします。

○鈴木座長 ありがとうございます。

それでは、早速ではございますけれども、第2回の有識者座談会を始めたいと思います。

前回、この有識者座談会で、どんな論点をテーマにするかということを経験してまいりましたが、今日はその2回目ということで、実際にまちづくりの中から地元の方々の意見を含めまして、寺川先生とありむら先生にご報告いただきまして、最後に、今後どういうテーマを議論していくかということを決めて、第3回から一つ一つのテーマを考えていくと、そういう段取りを考えております。

それでは、時間が押してございますので、早速ではございますけれども、寺川委員からご報告をお願いいたします。

○寺川委員 よろしく願いいたします。時間は7時ごろをめぐりにお話しをさせていただきます。

タイトルにあります、西成特区構想に対する萩之茶屋地域のまちづくり活動から見た提案というのが幾つか出ておりますので、ご報告をさせていただきたいと思っております。よろしくお願ひします。

■まちとのかかわりと本報告のスタンスについて

特にこの度は臣永さんがおられますので、まちは今どのような状況にあるのかについて、地域のまちづくり活動を中心にその概要についてご説明させていただいたほうが良いかと考えております。

まず、私の専門はまちづくり、ハウジング、地域マネジメントですが、主に各地のまちづくりにかかわりながら、地域の再価値化や、コレクティブタウンの研究を進めております。

今回の座談会での役割としまして、まずは、この間、萩之茶屋地域で支援者の方々と町会の方々双方のまちづくり活動をお手伝いしてきたという立場で報告いたします。特に最近関わらせていただいております「(仮称)萩之茶屋まちづくり拡大会議」では、コーディネーターとして、議論されている各主体の思いやニーズの整理や共有化など、いわば翻訳的な役割を担っています。地域にはいろんな立場の方々がおられますので、この会議が地域のすべての意見を代表しているものではありませんが、それでもかなり多くの方々がこの会議に参画して意見を出していただいているのではないかと感じております。

それともう一つの役割としては、まちの人々の思いに対する専門的視点から見た課題解決のための方向性や事業の可能性を提案させていただければと思っております。この部分については、次回以降のテーマ別会議で議論されると思っておりますので、その時点でお話しをさせていただければと考えています。

■あいりん地域におけるまちづくり活動主体連携概況

では、はじめにこの地域における各主体の連携状況について少しお話しをしたいと思います。

私が町会を中心としたまりづくり協議会でお手伝いさせていただいた時に当初感じた

印象は、深刻な状況や大きな課題を負っている状態に対する「あきらめ感」があったように思います。また、この地域にはいろんな活動主体があるのですが、お互いに「違い」があることで連携できてこなかった。行政含めて、それぞれが疑心暗鬼になっているというところで、うまくつながれてこなかったというのがこのまちの歴史であったように思います。しかし最近になって、幾つかの事情も影響し、多様な主体が連携し始めているという今の状況は、まちがかわる歴史的好機であると私は感じております。

ただし、地域の主体すべてが方向性を共有できているかという点、そういう段階ではありません。今なお主体間にはデリケートな関係があり、お互いの「違い」を踏まえた上で一つずつ、つながれるものから始めていこうという意識で集まっているというのが現状であるように思います。今、まさに信頼関係を紡いでいる状況だと思います。それは言葉の上での信頼関係じゃなくて、リアリティーのある成功体験が必要な時期にあります。今まで「裏切られてきた」という感覚がある中で、お互いの関係で目に見える成果というか、実感というか、そういうものが必要な時期かなと思っています。

そういう意味では、大局的・俯瞰的な専門家としての意見も重要なんですが、今の報告における、特に地域の人々が提案した活動案をきちんと見ていただいて、それらの案に対する具体的な課題や実現性、可能性を検証していただきたいと感じています。

ややもすると、専門家の提案が前面に出てしまいがちですけれども、地域の発意を具体化するということで、ぜひご協力いただければなど。それが結果的には、まちの主体性とか、持続可能性につながるのではないかなというのが私自身の考え方です。

■あいらん地域におけるまちづくり活動経緯

【プロジェクターによるプレゼンテーション説明：資料参照】

まちづくりの流れについては、95年からはじめます。この時期、まちづくりを担う組織としては、私の後にご報告いただきますありむら潜さんが事務局長をされている釜ヶ崎のまち再生フォーラムがあります。これがプラットホーム型のまちづくりの組織としては初めだったかなと思いますが、設立以後ずっと「まちづくりサロン」という集まりの場を継続されています。

その後、2005年から2009年にかけて、大阪市の計画調整局のまちづくり活動支援を受けて、この地域の町会とか社協さんによってまちづくり協議会ができました。それが萩之茶屋小学校・今宮中学校周辺まちづくり研究会という組織です。この研究会では

2008年に「萩之茶屋まちづくり構想案」が策定されています。その内容は資料にもつけさせていただいております。ただ、案は出したけれども、この地域の課題を解決するためには町会関係者のみでは難しい、ということが議論されました。そこで、もう少し幅広い人たちが集まって議論していかないといけないのではないかということから、研究会の呼びかけによって、2008年7月に（仮称）萩之茶屋まちづくり拡大会議というのが立ち上がりました。

その動きは、2011年には「住まい・まちづくり担い手事業」を受け、『あきらめない“共床共夢型”まちづくり連携事業』として具体的なまちづくり活動が継承されてきました。

同じ頃、大阪市においてもあいりん地域の今後を検討する調査が始まります。健康福祉局によるあいりん施策のあり方検討では水内先生が中心となり、計画調整局による地域連携方策の検討調査を私が担当させていただいたというのがこの間の流れです。

現在（仮称）拡大会議では、萩之茶屋まちづくり構想案のバージョンアップを図り、一定皆さんの意見がまとまったものを、「西成特区構想」に盛り込んでいただくべく提案しようということになってまいりましたので、今回は主にその報告をさせていただきます。

■まちづくり研究会活動と「まちづくり構想案」（2008年）

この地域にはまちづくり研究会（協議会）では、余りにも深刻な状態の中で地元対応の困難さがあり、負の連鎖があるものの、このまま放置できないという認識から「あきらめないまちづくりへ」が大きな方針になっています。

テーマについては、あまりにも大きな課題からではなく、「子どもと環境」をあげ、小学校と中学校の周辺を何とかきれいにするということから始めようというのがとっかかりでした。そして、「小学校周辺の環境改善」、「地域の諸団体との連携」、「まちづくり構想の策定」という3つを目的として活動されてきました。その中でも、野犬問題、屋台問題、ごみの問題などが、小学校周辺の環境改善で課題になっていました。

2008年、まちづくり構想案が策定されました。まちづくりの目標・コンセプトとしては、「子どもの声が聞こえるまちづくり」、「いざというときにこそ強い安全安心のまちづくり」、「一人でも安心して暮らせるまちづくり」、「マイナスイメージをプラスに生かすまちづくり」、「地域資源を紡いで生かすまちづくり」が提案されています。

活動テーマもいろいろあり、子育て世帯の支援、環境整備、防災・防犯、仕事・雇用、

環境・E C Oなど様々な提案があり、具体的な活動もなされていました。

また、具体的にこのまちをどう変えていくのかというイメージとして「まちづくり構想MAP」がつくられておりまして、特に小学校横の道を「まちの背骨」として改善していくことで、周りに広がっていく、まち全体が改善されていくようなイメージが出されています。

それと、「小学校の統廃合に関わる事業検討エリア」、「駅前開発エリア」をはじめ、「福祉モデルエリア」が設定されています。それからあいりん地域周辺には木造密集地域の問題があるので、耐震を含めてそこをどう改善するのかという課題を受けて「防災改修エリア」が設定されています。その他に阿倍野の開発とも関係して、「周辺大規模開発へのつながり」をどうしていくのかということも構想MAPの中には示されています。

■ 「（仮称）萩之茶屋まちづくり拡大会議」の設立と具体的な活動について

まちづくり研究会の目的としては、連携できる環境をつくろうということが当初目的の3つ目にありましたので、2008年にはこのまちづくり研究会が声かけをし、地域にあるさまざまな主体の方々に集まっていただくことになりました。お互いの違いを乗り越え、共有できることから具体的な活動を図るプラットフォームができました。

ただ、ここで重要な議論をしています。この会議の名称を「仮称」のままでいこうということでした。このまちの歴史を振りかえると連携組織をつくる際に、誰がそこで主体になって回していくかということでもうまくいかないことがある。この地域には、いろんな思いを持っている人たちが余りにも多いので、なかなかそれがうまくつながらず、いろんなところで課題、問題、違いが明確になっていってしまう。そこで、体制をあまりコンクリートせず、いろんな人がかかわりやすいようにしようということになりました。また、組織化して意見をまとめる際に、他から「ここがまちを代表する意見を出す場所とだれが認めたのか」などと言われるだろうと。だから、ずっと仮称のままでいこうとなりました。いろんな状況の中で変化しながら、場面、場面でいろんな意見が言える場所をつくるということに特化させようじゃないかということが議論されてきました。

このような会議の場については、昔からこのまちで活動している方々からは画期的だといわれることもありますが、余りつながっていなかった方々も、この会議をきっかけにいろんな意見を出しながら、活動全体を盛り上げていく契機が少しずつ生まれてきていると感じています。

また拡大会議では、大阪市のまちづくり活動支援が終わった後も、具体的な活動をしよ

うということで、国土交通省の担い手事業を受けようということになりました。机の上だけでやるのではなくて、一個一個、目の前で実感できるものをつくるチャレンジ型のまちづくりをしようということです。議論の中で、まちの居場所をどうつくるか、今ある居場所をどうつなぐか。このまちが無縁社会の代表格として取り扱われる中で、このまちにある独特な「縁」をどうつないでいくか。ブループリント型ではなく、逆引きまちづくりのような、少し今までとは違うようなまちづくりを進めではどうか、などが議論されました。このエリアは「コレクティブタウン」ではないかというキーワードが出されたのもこの時期でした。

具体的な活動や成果としては、まず、「覚せい剤撲滅キャンペーン」があります。拡大会議のメンバーを中心に、いろんな方が参加しました。メンバーにとっては「これが変わらないとまちも変わらない」という共通認識があります。覚せい剤問題などがなくなると、いくら夢の絵をかいても人は集まってこないし、子育てとか子どものことを言っても誰も集まってこない、これは自分たちでやらないといけないということで生まれた連携の場です。

また、この会議では、つながっているといいながら、議論される情報について、一方的に知らないところで決められていっているイメージがついてはいけないということが議論され、各主体共用の「情報掲示板」をつくろうということになりました。もうすぐ完成すると思いますが、小学校の東南角に、大きな掲示板をつくることになっています。今までは、町会は町会には町会用の掲示板があり、その他いろんな場所各主体の個別の掲示板があります。このプロジェクトでは、かかわっているそれぞれの主体が、ここに情報をちゃんと乗せて共有できる場にし、そういう情報のつながり、連携のつながりを「見える化」しようというプロジェクトです。

その他には、数十年間閉鎖されていた北公園の再開園があります。今までフェンスで閉ざされてきた公園は、この会議がきっかけになって再整備されました。ここでは、まちの人々の思いがつながって子どもが遊べる公園に再生した実感できる成果になったように思います。

■ 「あいりん地域連携方策調査」にみる「違い」を超えた共有化

次のスライドは、2011年に実施した調査の報告です。これは大阪市の計画調整局から委託させていただいた調査事業で、地域の連携方策を検討する内容でした。この調査を通

じて得られたことをあげていきます。私は各地域でまちづくりをお手伝いしているんですが、このまちの様相は他とは大きく違っていています。例えば、町会について、他の地域では町会加入率はかなり高いものですが、このまちでは1割に満たないという状況。いわゆる地域を構成する人たちが違う中で、コミュニティとはなにか、住民とは誰かということも含め、まちづくりを考える上で主体のありようが他地域と違う状態にあったといえます。地理的にも課題がありまして、この地域には10町会で構成される連合町会があるのですが、26号線の東と西、またはあいりん地域以外のところでは、まちに対する思いや課題の持ち方、リアリティーも違ってきます。あいりん地域は、2つの連合町会にまたがっているということで、何か一つのことをやろうと思っても、いわゆる町会としてのエリアでつながる限界も課題としてあげられました。

この表は、ヒアリング調査から作成した表ですが、このまちには100を超える活動主体があり、そのうちの40ほどのヒアリングをさせていただきました。ぱっと見ると、色の濃いところはつながっているということで、薄いところは余りつながっていないことを示します。この表から、色の薄いところの、なかなかつながり切れていないところをこれからどうつなげるかというのが、連携のためには重要であるといえます。特に課題としては、なかなか行政に対して厳しい意見を持っておられる方が多く、まちで起こった問題を行政に相談に行っても、いろんな部局に回されて結局何もしてもらえなかったと。一方、地域においても、各々が全く違う方向をみて意見を言うなかでは、行政としても誰の意見を聞いたらいいのかということになってしまい、「何もできない」状況に陥ってしまうこともあります。そういう問題もある中で、やはり共有可能な課題を見つけながら、少しずつ具体化していこうというのが報告書の提案骨子になります。

■（仮称）萩之茶屋まちづくり拡大会議による「まちづくり構想案」

次に、この（仮称）萩之茶屋まちづくり拡大会議が出しております「まちづくり構想案」についてお話しします。

全体のイメージについては、まちづくり研究会が2008年に提案したものと大きくは変わっていないのですが、今回は、それぞれが具体的な提案になっているといえます。意見の集め方としては、拡大会議に参加している各主体の方々に意見を持ち帰っていただいて、次の会議の場に持ってきていただきながら集めてきました。また、関わっていない方の意見も集めようということで、再生フォーラムを通じて呼びかけをしていただき、その意見

も取り込ませていただいて、300ほどの具体的な案が出てきました。テーマをいろいろ集めていただいくなかで出てきた意見としては、課題の抽出だけじゃなく、何かこのまちのよさに注目するというか、まちの資源や活動の「見える化」に注目していくことになりました。現在の地域で活動する各主体の動きについて、意義や可能性を「見える化」していかないといけないというような意見が出ました。そして、このまちづくり構想案を市や区に提言、連携しながら、具体的なアクションを起こそうと。このまちの価値を見直し、生かすまちづくりを進めよう。ビジョンを共有して、特区構想に提言しましょうということになっています。

具体的なテーマとしては、子ども・若者、観光・交流、仕事・福祉・住まいなど9つのプロジェクトがあります。そして、テーマごとに具体的なアイデアが300以上あげられました。皆さんに資料でお渡しをさせていただいておりますが、実は先日の拡大会議で特区構想への提案に対する最終的なまとめの段階における議論をお話しします。全部をまとめ切らずに、いろんな意見を並列しておこう、という話が出たんですね。一個一個の意見を全部まとめるというのは難しいし、それぞれの思いも今なお違う部分がある。ただし、このような意見がある、ということを一定のテーマの中で整理して出すこと自体に意味があるのではないかと議論されました。本当はじっくりみんなでまとめたいんだけど、時間もない、ということもあってこのような形になっています。

■9つのまちづくりプロジェクトの提案

(1) セーフティネット強化プロジェクト

これは、福祉・医療・多様な団体の連携、パーソナルサポート・ワンストップ窓口の提案で、結核や精神科など最先端医療ビルの誘致とか、支援団体同士の情報交換、交流、連携の推進。子どもから高齢者までさまざまな生きづらさを支える支援ネットワークづくりというようなことも出ています。例えば、あいりんセンターに福祉の総合ワンストップ窓口を設置してはどうかという提案です。

このパワーポイントの頁だけでは、アバウトな感じがすると思いますが、配布資料に、それぞれの項目についてもっと詳細示したページを添付しています。この資料には、なぜそう思ったのかという経緯や課題も出ていますし、具体的なアクションも提案されていますので、各プロジェクトの詳細についてはこの資料部分をご一読ください。

(2) コレクティブタウンプロジェクト

これは、住まい、居場所、つながりづくり、多様な暮らし、持続可能な体制づくりを図るということで、コミュニティ事業のマネジメント機能を持つものです。簡易宿泊所のさまざまな住まい方を提案としてコレクティブ住宅はどうかという提案をはじめ、まち中に単身者、子ども、若者が交流できる居場所づくりをしたらどうかなど。つながりながら安心して暮らせる住まいづくりとコレクティブタウン化の推進。地域の取り組みのマネジメントをする体制づくり（まちづくり会社・公社等）があがっています。

コレクティブタウンというのは余り聞きなれない言葉だと思うのですが、簡単に言うと、まちの中全体が家の続きのようなものをイメージしてください。普通、家といえば、リビングがあって、トイレがあって、お風呂など、いろんな機能や設備が家の内部で完結しています。ここコレクティブタウンとは、その家の内部を立派にするよりも、まち全体に居場所があり、みんなが共有する、大きなリビングのような空間や機会となる居場所が充実しているまちで、まち全体が家になっているようなイメージでとらえていただけたらいいかなと思います。

（３）防災力アッププロジェクト

このプロジェクトは、あいりん地域周辺の木造密集地域と連携した防災のまちづくりを目指すことにあります。周辺との連携方策、支援ノウハウ、簡宿を活用した備蓄確保などの災害時に強いまちづくりの展開です。具体的には、あいりんセンターなどの施設や住宅の耐震性強化、避難所や食糧備蓄の確認、木造密集施設の防災、災害時の連携、支援ノウハウや宿泊施設などのストックを生かすなどがあげられています。

（４）国際ターミナル化プロジェクト

これは次回議論されるテーマになっていくと思いますが、バスターミナル・鉄道網・バックパッカータウン・センターコンバージョンというようなことで、あいりんセンターかいわいに中長距離バスターミナル整備をしてはどうかというものです。あいりんセンターに来訪者インフォメーションセンターを開設。駅とあいりんセンターを一体化して地域を回遊できる道づくりをしてはどうかなどがあります。また、簡易宿泊所の改修を促進する補助制度の導入、地域住民、生活保護者などによるまちの案内を拡充、商店街の活性化と連動した観光まちづくりの推進というものが出ています。

（５）若者地域生活環境づくりプロジェクト

いわゆる比較的若い世代、10代から30代、住まいをそこにイメージとしてキーワードとして挙げ、アート・就労支援・SOHO・空間活用の推進があります。最近増え始めて

いますが、地域にある空き家を活用した「居場所」の創出ですね。若者の住める家とか、そういう活動をやっている場所、社会的企業家などの住まいの整備、空き店舗や空き家を活用したアートインレジデンスとかSOHOなどの整備、就労支援・福祉支援、若者がチャレンジできるバックアップ体制、屋台などの特徴的な魅力で若者を呼び込むことなどが考えられます。若者が行きたくなる、住みたくなるまちの魅力など地域情報を発信していく提案です。このテーマについては、これまで研究会や拡大会議では「子ども」をテーマに議論していたんですが、なかなかいきなり子育て世帯が来るというのは難しいという考えから、若者によるアートによるまちづくりなどがこのまちを変えていく原動力として考えていくことに可能性があるんじゃないかというような意見からうまれました。

(6) 環境循環型産業づくりプロジェクト

ここでは、ごみリサイクル・地域雇用・ボランティア・緑化・花・地域案内があがっています。地域の課題としては、ごみ問題というのか、美化というのか、そういう環境の話が必ず出てきました。この際、ごみをリサイクルすることを打ち出すなどして、逆に一番エコなまちだというふうなことを訴えていったらどうかという案でもあります。ごみを回収してリサイクル、再資源化ファクトリーの開設、その再資源化を通じて地域雇用とか役割、生きがいを創出すると。今いるおっちゃんたち、生活保護受給者とか高齢者のマンパワーを生かすことや、野菜の栽培をして西成区の特産にしてはどうか、野菜教室とか健康増進の取り組み、高齢者、障がい者のものづくりや地域物産を展開してはどうかというような案も出ています。

(7) 小中一貫学校地域づくりプロジェクト

このまちには子どもが少なく、学校の生徒・児童数も少なくなっている状況の中で、小中一貫校を創設して地域プロジェクトとして連携してはどうかという案も出てまいりました。地域の環境整備なしに統合問題は進めないという指揮のもとで、萩之茶屋小学校校舎・校庭をどう活用するかということ。それから周辺環境の維持・改善、それから覚せい剤、ごみ問題もこのプロジェクトをきっかけに改善していくことはできないか。統廃合後も学校施設として活用して、周辺環境を維持してはどうか。校庭をプロ仕様のサッカー場として整備、地域に開放しようとか、生活保護受給者などによる登下校の見守りなどの仕組みをつくるとか。覚せい剤とかごみ問題については、官民連携して改善を進めるとか、子どもと単身生活者の交流とかいうのが出ています。

(8) 子ども・子育てプロジェクト

これは、もっとも大きなテーマのひとつで、子育て支援、住まいづくり、教育環境づくりに関するプロジェクトです。今ある子どもに対するケアの視線と新しい子どもがこのまちで生活できる環境整備の視線の2つの支援があります。具体的には、子どもの居場所づくり、自立援助ホームの開設など、そういう支援を拡充・連携することをはじめ、子育ての住まいづくりで簡宿のコンバージョン、青少年の居場所づくりがあります。それから、西成で先進的に試みられている、子育て関連の既存システムの再整理と、要保護児童対策推進協議会の効果的な連携をはじめ事業委託の方向性などを充実・強化してはどうかという案も出ています。

(9) 歴史継承共有プロジェクト

最後に、寄せ場の歴史を含め、この地域にあるものを、ゼロから何か全部新しくしてしまうというのではなくて、これまであったものをどのように伝えていくかとか、これを良さとしてどう生かすかということで提案されたプロジェクトです。ミュージアムや資料館の設置などの案もあります。

以上大まかに9つのプロジェクトをあげさせていただきましたが、これらの詳細についてはここでは述べきれないことはできません。次回以降のそれぞれの議論の中でこのテーマを具体的に各委員の先生方にも注目していただきたいということで、資料としてつけさせていただきます。

■300のアクション事例

ここでは「アクション300」の一部を紹介します。

(1) 「まちづくりの主体づくり」

これまで、どうしたら地域の人たちが参加できるのか。それもいわゆる支援者だけじゃなくて、いわゆる労働者の方とか地域のおっちゃんたちが、どのようにまちづくりにかわれるのかという指摘があります。今集めている意見も、やっぱり全体としては、そのおっちゃんたちの意見はなかなか聞けていないという状況の中で、どのようにまちづくりや活動の中で、そういう人たちが参画できるかということも大事だという意見です。

(2) 「学校をどう活用するか」

このアクションには、非常にいろんな意見が出ています。地域が主体的に、自分たちがマネジメントできる力を持つということが非常に重要であるといえます。今までのよ

うに、行政に何かをしてくれということではなく、自分たちはこれだけやれるよ、できるということをちゃんとサポートしてもらいたい。というようところが提案の骨子になっています。

(3) 地域の暮らしと仕事

「寄せ場」をどうしていくのかということが非常に重要なテーマにはなっています。これについても個別でいろんな案が出ていますね。小さい文字で恐縮ですけれども、仕事づくりとパーソナルサポート。このまちは、個々人に合った仕事づくりを丁寧に対応できるまちであるというような意見も出ています。その他、西成の特産物づくりと料理教室など具体的なアクションも数多く出されています。先ほども言いましたが、地域の中で、その存在というか、役割や生きがいを生み出すということが非常に重要だというような意見が出ております。

実は、すべてが同じ思いで整理されているのではなく、各々が思う地域のいろんな実態・課題・疑問も出ています。単なるアクションだけでなく、課題に対する意識もいろいろ書かれています。その点についてもぜひ座談会の議論でいろいろと提示させていただければと思います。例えば、「寄せ場としての役割が終わったとしても問題が解決したわけではない」という意見があったり、「ビジネスと支え合うというのは共生できるのか」等々様々な相反意見も交わされているところです。

(4) 地域環境をはじめとする空間活用

地域の環境について、道路、あいりんセンター、跡地等々、このまちには、どう使うかを考えないといけないものの考えられていない、気づいていない空間、施設、場所が多い。まちづくりの中でも非常に重要なテーマとして位置づけられています。

例えば一つに、あいりんセンターや市営住宅の建て替えの検討という案については多様な案が出されています。1、2階はショッピングモール、2、3階は市・府の役所分室、それ以上はファミリーマンション、それから南海本線、JR新今宮を地下や地上で連結して一体化、総合イベント会場をつくってはどうかや、セーフティネットの拠点化、バスターミナル設置、総合インフォメーション設置等々、人がここに集まってくると拠点をつくろうという視点が関西の玄関口としてこのまちを変えるのではないかという意見から、いわゆる「ターミナル」というコンセプトがキーワードではないかと思われまます。

また、2つ目としては、空き地の活用ですね。これについては、線路跡地の活用があげられています。屋台村をつくってはどうかという案もかなり盛り上がったテーマでした。

小学校横の屋台が焼けたことで、結局、その後にそういう場所の再検討をすべきとの意見も出ています。屋台については、覚せい剤の売買場所になることをはじめいろんな問題が起こる現況を生み出す課題として認識されている部分もあるわけですが、このような場所があるということがまちの魅力にもなるのではないかという認識から、それをもう少し地域主体で事業を運営できないかというような案がでています。そういう空間をコミュニティの場として活用するような、地域オリジナルの活用方法、居場所づくりを進めるというのが、このまちの空間を利用する重要なテーマになるということであるといえます。

(5) 居場所づくり

全体を通じてこのキーワードが出ていますが、やはり社会へ参加して、そこに参画できるような「居場所」に必要性が求められています。このまちの住民には、いろんな「居場所」があることが、このまちの特徴であるということです。その居場所が地域とつながる場所、おっちゃんたちだけの場所ではなくて、町会の人とか、いろんな人がちゃんとながれるような場所、情報交換ができる場所、そしてアートスペースなどの活動によってつながるような具体的な提案も出ています。特に演劇とか文化については、このまちが持っているものを、新しく再構築していくというのも新しいまちづくり、居場所づくりとして重要なテーマであるといえます。

(6) ターミナル化と地域の発展

玄関口としての新今宮をどのようにうまく活用するかというのは無視できないテーマです。特に国際的な交流拠点とかターミナルとして人を集めていくことで、いろんな利用可能な宿泊施設や観光施設、ヒューマンサービスが必要となり、またそういう文化も育つようなターミナルをイメージしています。今あるあいりん、萩之茶屋、釜ヶ崎のターミナルとしての意味合いと、新しい人が入ってきて、人が行き交うターミナルという2つのターミナルをイメージしたものであると考えています。

(7) 国際化と地域の発展：国際ゲストハウス

すでに太子地域では具体的に動き出していることでもありますので、それをもう少し国際化の中でうまく機能させる方法として活動、このアクションについては、次回、松村先生から報告があります。

(8) 子ども・子育てのまちづくり

このテーマについては、子どもが本当にこのまちで住めるかということがよく議論になります。幾ら子ども世帯に住んでほしいといっても、なかなか住めない環境じゃないか

ということです。そこで、まちの環境を改善しながらも、ここに住むことで子育てを安心してできるよというような環境をつくらないといけないということが一つと、今いる子どもたちをどのようにもう少し住みやすい環境をつくっていくのかということがテーマです。

もし、今宮中学校が小中一貫校になっていくのであれば、この中の子どもたちだけじゃなくて、いろんな人がこの子ども・子育てがしやすい場所としてつくれるようなまちづくりを進めようということがイメージされています。

アクションとしては、3世代同居に対する減免優遇、自立援助ホームの建設、青少年の生活の場づくり、それから西成区の「要対協」スタイルを発展させた地域交流システムの充実と区からの指定管理等の委託化など、事業をもう少しまちの主体につなげていくということも非常に重要じゃないかという案もでています。この提案は、皆さんにお配りした資料には掲載していないのですが、先日得た、西成子育てネットからの提案でもありません。全体を通じて、子育て環境を、住まいと支援と福祉をはじめ、いろんな分野をつないでいくことで子育てをしやすいまちを目指そうという提案になっていることが特徴です。

(9) 新たなセーフティネットの構築

生活保護と単身高齢者については、実態・課題・疑問がいっぱい出ていますね。難しいという状況にある中でも、やはり社会資源を生かして連携することの重要性が指摘され。福祉、医療、司法などの連携を生かした新たなセーフティネットをつくっていくことが提案されています。公的病院の開設とそ医療ビルの誘致などの提案もあります。また、今まで地域で積み重ねられてきた活動の再評価が求められています。今までやってきたことが評価されていないものの、極めて重要な役割を果たしており、そのことでより深刻な状況を回避できている実態を「見える化」する必要性を指摘しています。この認識なしに、独自のシステムをなくすることの危機感から、このシステムがうまくつながっていくような方策はないかという意見も出ています。

(10) 警察との連携・協働

ごみと覚せい剤、賭博場の問題は毎回出てくるのですが、このテーマについては、幾ら議論しても、この問題がある限りまちづくりはうまく動かないという話が出てきます。このアクションを具体的に進めるためには、大阪市だけでは無理だという認識が強くあります。特に警察の方にも入っていただかなあかんの違うかと。地元も頑張る、大阪市も頑張ってもらいたい、警察も頑張ってもらいたい、みんなでやるという体制をつくらないと、幾らたってもここは改善しないじゃないかという意見は常に出ております。

(11) 地域資源の再構築とネットワーク化

それから、地域資源の見直しですね。これもこの地域にはいろんな資源があるといえます。この資源をもう少しつないでいくというか、生かしていく方法があるのではないかというアクションですね。あまり詳細は載っていませんが、緑化や景観づくり、トイレマップ、公共設備の活用、などがあります。また、以前、自転車などの地域特有の課題解決について、「ママチャリ」じゃなくて「カマチャリ」というシェアのシステムを提案したのですが、なかなか難しいようですね。

ネットワーク化については、キーワードとしてはセーフティネットの構築でもあります。このアクションについても実態・課題・疑問等々いろいろ出ておりますが、地域の情報発信をどうするかという案の中では、資料館の建設や「コミュニティラジオ」の設置、障がい者とアーティストのコラボレーションでオリジナル製品の制作などが挙がっています。

そして、新たなネットワークについては、やはり「縦割り」の弊害を解消するためにいろんな組織とか仕組みをどう横につなぐネットワーク化が非常に重要であるとしています。

この地域について、主な実態とか課題を語る際に、生きづらさを抱えるさまざまな人々を支える社会資源が豊富であり多様な活動団体があるというよさが指摘されています。

(12) 地域の活性化と住まいの多様化

地域の活性化について、増えつつある商店街の外国人対応をどうするかという具体的な案として、実際に動き始めている部分の積極的な推進をはじめ既存店舗の活用があります。また、新たな参入を促すような助成などとして、空き店舗の賃貸に公的組織が仲介して保証するなど、地域の不動産を動かす仕組みをつくってはどうかという提案があります。その他に、街角コンサートや大道芸のイベントによる、また、住宅整備については、シェルターではなく多様な住宅整備が提案されています。特に、緊急避難と一時的な生活の場ではなくて、定住生活ができる機能を両立させる重要性が指摘されています。

とにかくこのアクションとしては、「チャレンジできるまちへ」がキーワードになるといえます。空き店舗や簡易宿泊所をはじめとする地域ストック活用を推進し、ビジネス、仕事、ボランティア、アート等々を支える住まいづくりを進めてはどうかというものです。これは、先ほど述べました若者にも魅力あるまちづくりを進めることにもつながります。

(13) 情報発信拠点の整備

ここでは、大学・企業との連携ということで、市大と府立大の統合後、都市・社会問題の教育研究部門・社会福祉部門を設けてはどうかというアクションが示されています。例えば、起業を目指して、製造業や企業・大学の誘致、交通等利便性を生かした優遇税制を含めた施策の推進、そういう研究・調査・学習、地域発信などを、大学を呼び込んで研究とフィールドワークを情報発信の場として活用していくというアクションが提案されています。

(14) マイナスイメージをプラスに

ここには、課題を魅力に転じるバリアフリー化と書いてありますけれども、マイナスイメージをいかにプラスにするかということでもあります。ここでは自転車環境の改善とか、結核対策が出ています。特に、結核対策を行政のアクションプランに取り入れて、結核診断での連携と情報発信を拡大してはどうかというアクションが出ています。

■まちづくり構想具現化への期待

以上、これまでの活動の経緯と地域の人々がまとめ上げてきた構想を報告してきました。今後は、こうやって出てきたものをどういうふうに具体化していくかということが求められております。案の中には、相反するものもあります。はじめに述べましたように、これらの案を、構想MAPも含めて、どのようにしたら具現化するのかをはじめ、どのテーマがこのまちにとって現実的で、かつ、これからの展望が開けるかが重要です。地域の人たちが主体的にそれを担っていけるような持続可能なまちづくりのために、特区構想の中に、具体的に組み込んでいただきたいと思います。

2008年の研究会で出された構想案と構想MAPの策定以降、地域の人々は、いろんな障がい乗り越えながら、自分たちができることはやろうという意識で頑張っているところです。今、その信頼関係を紡いでいるこの状況の中で、これから特区構想を具体化していく中で、具体的な協働の成功体験を紡いでいただきたいと思います。

以上が私の報告となります。ありがとうございました。

○鈴木座長 どうもありがとうございました。

それでは、どうしますかね。ここで議論をするか、それとも、ありむら委員にこれに加えてご報告いただいて、全体で議論を。

○事務局 そのほうがいいですかね。

○鈴木座長 では、続きまして、ありむら委員のほうからご報告をお願いいたします。

○ありむら委員 釜ヶ崎のまち再生フォーラムというまちづくりネットワークの事務局長をやっております。その活動をこれから、皆さんの資料では31ページですが、非常に頑張ったために、ごちゃごちゃなり過ぎていきますので、パワーポイントを使うことにしました。

釜ヶ崎のまち再生フォーラムができたのが、1999年なんです。これはなぜこの年にできたかといいますと、いわばどん底の状態が98年でした。大阪市内で野宿者の数が大阪府立大学の調査で8,660人を数えた年で、その翌年です。本当に真っ暗闇の中で何とか状況を打開しようということで、今までとは違う座標軸を打ち出さなきゃいけないということで、まちづくりで打開していこうということになりました。それで、組織で動こうとしてもなかなかアクションにつながりませんので、もっと自由奔放に討論して、アクションにつなげていこうということで、個人参加の方式で始めていったわけですね。具体的には月に1回、あるいはそれに加える場合もありますけれども、「定例まちづくりひろば」というのを開催して、ずっと月日を重ねまして、今年の8月で170回目になるんです。当初は、集まり自体が「釜ヶ崎のまち再生フォーラム」という名称だったのです。要は、先に結論を言っておきますと、あいりん地区、釜ヶ崎というと、まちづくりなんかないだろうと、そんな積み重ねなんかないだろうと一般の市民の方には思われるかもしれませんが、ところが、実は大変な合意の形成と積み重ねを本当に一生懸命やってきているんだということをお願いしたいわけです。

その具体的な内容をこれから述べていくわけですが、2000年には「第1ステージ」という緊急対策のビジョンづくりをやりました。これは主に内容は簡易宿泊所活用の提案でした。この部分、見にくいと思いますが、次ページにあるのが拡大図です。細かく説明しませんが、要はシェルターだけではなくて、もっと地元にある簡易宿泊所とか、そういう労働者が住みなれているものを活用したらどうなんだと。そのほうが自立につながるし、地域経済にもいいし、コスト的にも安く済むという提案なんです。ここから何が生まれたかといいますと、具体的な成果といいますのは、西成労働福祉センターで毎日無料宿泊紹介制度というのをやっております。それからホームレス就業支援センターとか、チャレンジネットで、支援しなきゃいけない対象者が出てきたときに、簡宿を随時、まとまって1週間とか2週間とか借り上げるということをやっております。これは2000年当時、大阪府に簡宿組合が提案したときに完璧に無視されたんです。特定の業界に後押しするわけにはいかないということで。ただ、その後事態の推移の中で、やっぱりこれを活用する

のは経済的にというんですか、いろんな意味でやっぱり合理性があるということで復活し、もちろん居住水準の問題はあるんですけども、それで進んできています。、ただ、まだ規模は小さいです。

ここでついでに言いますと、大阪南港で府・市が毎年越年対策事業をやっていますが、毎年毎年2,000人規模の宿舎をつくっては取り壊しということをやっているんですよ。もうこのやり方は限界が来ているということは地元で、先ほどの拡大会議でも議論されておりまして。もっと地元の簡宿を使えば、南港利用者が直近で2,000人台を大きく割ったこともありますから、もっとうまくできるんじゃないか、提案を出そうかとと、議論がされていますので、これはもっと具体的に動いていくことが考えられます。

それで2000年、この第1ステージビジョンがその時は余り動かなかったものですから、すぐに2ndステージ（中期対策）というものを考え出して、ワークショップをやりました。これが次のページにあるものですけども、これが四葉のクローバーなんです。「仕事づくり」「つながり・ささえあいづくり」「共生」、それから何よりも「居住の安定化」の4つですね。ここにありますように、外国人宿街の発想も出てきました。それからサポーターハウスというアイデアもここで出てきたんですね。ここに参加していた経営者の方たちがこれを具体化していったという経過があるわけです。ですから、国際集客都市ということで、ここから国際ゲストハウス地区創出の空気が広がっていくわけです。ここが源流だというふうに考えてもいいと思います。

あと、この2ndステージから出てきたものは何かと言いますと、NPOの活躍というか、活動をここで重視しましたので、それをいわば後押しするような形でこのビジョンが街に伝わっていったとでもいうんでしょうか、共有されていったという、そういうようなプラスの影響があったと思います。

それから、あまり知られていないかもしれませんが、スライドの図のここで「西成市民館の活用法」というのはワークショップなんかでさぐってきたんですが、当時は市の直接の管理で、ただ箱物を貸すだけ、会議用に貸すだけだったんです。今は新しく人と人とのつながりをつくらなきゃいけない、その拠点になるようにということで、西成市民館は指定管理者制度に基づいて、今は亡き小掠先生、1階にありますわかくさ保育園の園長先生をはじめみなさんが一生懸命になりまして、私らもそれを支えるためのNPOづくりにも参画したんです。それで今、新しい人と人をつなぎ直す今日的な隣保館事業というのを進めております。それもこのビジョンづくりの中から出てきたことだと思っています。

す。

それから、もっと先のことを考えなきゃいけないということは、実はもうその頃から議論していたんですよ。目の前のことだけじゃないということで。20年先を見越したものでなきゃいけないと、2005年から「第3ステージのビジョンづくり」に入りました。これはなかなかうまくできなくて、何年がかりかなんですけれども、でも4回ぐらいはワークショップをやったんです。そのときに、例えばスローガンが要るだろうということで、「チャレンジのまち」とか、「自分自身と自分が住んでいる地域に誇りを持てるまちづくり」、それから「すべての住民が仲よく安心して住み続けられるまちづくり」、「pride」に「peace」ですね。3つのPなんですけれども。「だれもが社会参加できて、その内実が豊かなまちづくり」、つまり[participatin]なんていうのをまとめたことがありました。

ただ、このときはやっぱりこの「ひろば」での集まりというのは、まだ行政とのつながりがなかなかつくれなくて、市民活動として勝手にやっているだけみたいなのところがあったんですが、でも、こういうのをやっていく中で、実は図のこことつながっていくんですよ。先ほど寺川さんが説明してくれました（仮称）萩之茶屋まちづくり拡大会議です。例えば最初、防災と一緒に勉強会をやりました。というのは、私たちがこの「ひろば」で防災に関して5回ぐらいシリーズでずっと学習会をやり提案をしていたのですが、実際に地域で防災を担っているのは町会の皆さんでしたし、労働者世界では防災活動はやっていないということもあって、でも重要な問題ですから、一緒に勉強会をやりました。それに加えて、10年先、20年先を見越したまちのビジョンをつくらなあかんということになりまして、これも共同で勉強会の「ひろば」を開催することになりました。そういうことで、実はこのまちづくり拡大会議というのができていくというのは地域にとってはたいへんに画期的なことでした。そういうまちづくりの主体を形成していく上で、この第3ステージビジョンづくりは非常に役に立ったと思っております。

それから、実はここを見てほしいんですけども、04年には「特区的構想で何ができる？ワークショップ」というのを実はやっているんですよ。というのは、政府がこの時期に、小泉内閣のときでしたか、特区再生事業というようなことで打ち出して、全国から手を挙げさせましたよね。それで、そのときに私たちもワークショップをやりました。実はこのときに大阪府の地域福祉担当の職員さんも個人の資格で来てくれたんですけれども、これは非常におもしろかったです。3つの分科会をやりまして、1つは「あいりん総合セ

ンターの使用目的を広げることができるとしたら、何を開設したい？何をしたい？」という分科会。それから2番目が、「もしも生活保護の人が収入5万円までは働いても収入が引かれないとしたら、何をしたい？どうなる？」というようなこととか、「その他、特区的発想を使って釜ヶ崎で作れるシゴト・できるモノ・やれるコトって何がある？」、というように、やりたいことやできる仕事、を出し合おうということをやったんですよ。これはおもしろかったです。これが、まさしく本日のこのような形で、この2012年に至って、再びこうやって語っているわけですが、非常に歴史というのはおもしろいなと思っております。

それから、資料の図表の真ん中あたりにのほうへ行きますと、2010年には実はここにある、この拡大会議が危機に瀕したことがあります。というのはようやくこの辺で、雪解けムードが地域全体に漂っているのがわかると思うのですが、2010年の1月に朝日新聞にこういう記事があったんです。「大阪市が公園のテントを撤去する計画を立てている」というふうに出ました。、それに猛烈に支援団体が反発しまして、あっという間にほとんどの団体が集まって、「釜ヶ崎の公園を守る会」というのができて、その報道の火元はどこだということになりました。拡大会議がこの頃いろんなことをやっていたものですから、「そこが火元じゃないか」とか、「いや、善意であったとしても、利用されているのと違うか、お前ら」ということで、この辺にすごいあつれきが生じて、壊れていく可能性があったんです。

そこで、「まちづくりひろば」では急遽、その問題を取り上げて、対応したんです。本当に激論でしたけれども、そのときに出たのは、「あいりん総合計画というのがもしできれば、それさえあればこんな細かいことで、公園の問題とかでいがみ合う必要はないんだ」ということが共有されたんです。そのことがわかったことはとても大きくて、それ以後「ひろば」は、この拡大会議の結束の補完や拡大会議の拡大会議という役割に徹しているところがありますね。

改めてこの部分、「まちづくりひろば」と諸ネットワーク間の関係を申し上げますと、拡大会議は団体が参画してくるのに対して、こちらは個人です。会いりん地域にはほかのネットワークとかケア現場の人たちのネットワークもありますし、運動体のネットワークもあります。そういうところにもいわば伝わっていくというような。個人を通じて、個人が重複して行き来して。「ひろば」はその時の旬のテーマだとかゲストスピーカーによって集まってくる人たちが見事に違うというのが特徴があるんですが、拡大会議が決める

ところであるのに対して、ひろばはそれをスピーカーになってアナウンスをし、なおかつその問題について意見を集めて拡大会議に反映させていくという役割を今はやっておりません。

2011年、去年ですけれども、7月には「ひろば150回記念」ということで、「あいりん総合計画シンポジウム」というのをやりました。まさしく今ここでやろうとしていることを、なんです。このときには水内先生の『あいりん施策のあり方報告』ですね、大阪市に提出したものをここでも報告してもらい、それから先ほど寺川さんが報告してくれた文書も一緒に出して検討しました。その結果、わかったのは非常に人々の期待も多いということ。もちろん疑問やら、ほんまかいなというような、そんなんでできるんかという疑問もあるんですが、期待も高いということ。もう一つは、とにかく資料の図の中のこの部分のように、「声なき声の存在」があるわけですから、いろんところでそういう議論を重ねていくべきだ、そのことがとても大事だというようなまとめになりました。

次は、パワーポイントには出さないんですけれども、皆さんの資料にはお配りしていると思いますが、最近の定例まちづくりひろばで出された意見を紹介します。資料をご覧ください。まさしく「西成特区構想の取り組みは今こうなっている、そして提案するものをみんなで考えたいので、意見を寄せてください」というふうに、本日のこの集まりに焦点を当てて開いたものです。

かいつまんでポイントを紹介しますと、まずこういうのがあります。阿倍野再開発というのは、要するに「ひろば」や本日のこういった話し合いの場というか、機会すらなく進んでいったんだそうです。それで、あのようになってしまったと。それを考えると本当に絶望的になると。今回、このあいりん、釜ヶ崎の地域で今起ころうとしていることは、まだ何か新しいものをつくりつつあるんじゃないかということです。「こうやって話し合っている場にいるんだから」と。そういう声がありました。

それから、こうした集まりは本当にいろんな立場、いろんな考えが交錯する場です。それをどうやってまとめていくのかという点で、こういう意見もありました。「とにかくこのまちにとって何があったらいいのかだけで考えたらいい。例えば、生活保護のおっちゃんたちのことと言えば、何があったらおっちゃんたちの生きがいになるのかとか、そういう考え方でいくと、極めてシンプルに答えは出てくるはずだ」と。

それから、このようなものもあります。「結局、どこから始めるのか」というような論ですね。いろんなビジョンがありますけれども、実は昨年子どもスポーツひろばという

のが、みんなの力でスタートしました。本当に地元のいろんな人たちが力を合わせて、いろんな人たちが合意してできているところなので、あそこからとにかく始めたらいいと。答えはもうできているんだと。

それから、先ほどもちょっと出たと思うんですが、とにかくまちづくりですから、いろんな人が力を合わせていかなきゃいけないわけです。そのためには何が足りないかという、一つにはやっぱり警察が動いていないという意見がありました。警察がまちづくりに協力しないと、覚せい剤撲滅も屋台村の創設もないし、なかなか進まない。だから、とにかく警察の本部長さんに関係会議の席に座ってもらわないとだめだと。だから、そのために橋下市長なんかにも協力してもらって、何かそういう誘導をしてもらわなきゃいけないんじゃないかと。そのためには、何よりも世論を盛り上げることが必要じゃないかというような意見です。結局、みんなの声を集めること。ですから、警察の協力もそうですけれども、支援団体もそうですそれから市役所の職員さんたちもそうです。、生活保護とか現役の日雇い労働者一人一人の声も集める、そういうことがとても大事なんだと。そのところにやっぱりみんなこだわるわけですね。当然だと思うんですけども。

再生フォーラムとしては、やっぱりまちづくりのネットワーク、団体ですから、そういう住民参加のプロセスをとにかく大事にしたい。市長さんや区長さんにもその点を理解していただきたいですね。確かに、スピードが今大事です。25年度の予算の編成が始まっています。だから、なかなかそれとの両立は難しいんですけども、でも、そういう中でもできることはやらないといけないと思います。

というのは、これからの一つの大きな目標、戦略目標とでもいいですか、「ささえあいのまち」というのは、これは絶対に外せないと思うんです。だとしたら、いろんな人たちがやっぱり支えていかなきゃいけないわけで、いろんな人たちの住民や関係者の協力を得ないといけないわけですから。だから、例えばあいりん総合センターをどうするのかとか、小学校の跡地をどうするのかといったこととか、そういうこと一つ一つもやっぱり、いろんなその辺のプロセスを大事にしながらやっていってほしいと。そうすることで、いろんな人の声が集まることで、突飛な案が淘汰されていきます。すると、やっぱり合理的などいいですか、豊かな中身が出てきますし、私たちはそれを経験しておりますので、そういうことをこういう特殊な状況な中でもやっぱり追求してほしいし、私たちもそのために「ひろば」なんかを使って全力をあげて協力したいと思っております。

それから、こういうのもあります。移行期の問題ですよ。10年先、20年先を、きれ

い事を言う前に、目の前に例えば医療機関の指定制度とか、いろいろ争点がある。子どもの家事業廃止とかある、と。あるいは、高齢化した人たちがまちをいわば徘徊するようになるわけですね。その状況はもう既にあるわけですがけれども。トシって、その人たち、足腰が立たなくなる人たちもいる。その人たちをどうするんだと。そこへ、集客事業ということで人を呼び込んだとしても、そういう人たちの目にさらされるんだぞと。それに対しては別な手立てが要るだろうと。、そういうような極めて現実的で厳しい当然の意見もあります。

繰り返しますけれども、あいりん地域では、一般に持たれているようなイメージと違って、こういうような合意を必死になって形成し、積み重ねようという努力をしているということを理解してほしいと思います。ですから、今回の特区構想の動きというのは、私は読み込み直そうと思っているんです。上から突然やってきたとかじゃなくて、こういう下からの積み上げの上に成り立とうとする出来事だし、接ぎ木をしていくんだと。そういうふう読み込み直していきたいと勝手ながら思っております。

最後に、独自の提案というのをちょっとやらせてもらいます。

皆さんの資料では39ページだと思いますが、再生フォーラムとして独自に一応提案をしました。考え方のポイントというのをまず出しました。拡大会議には提案しているんですけども、というか、拡大会議に提案するために考え方のポイントというのをまとめたということなんですが、皆さんの参考にもなると思いますので、紹介させていただきます。

まず1つは、いろいろ否定的に見られがちですが、あいりん地域というのは、実は「失ってはいけないもの」があります。それは守ると。それを破壊することは大阪市政、あるいは社会に甚大な打撃になります。そこを読み違えないようにしてほしいということがあります。例えば、あいりん総合センターの寄り場ですが、現在、日雇い労働者が5,000人から8,000人は存在しているわけです。技能講習なども受けてりしながら、一生懸命働いているわけです。その機能が取っ払われると、大変な混乱になります。それから、日雇い雇用保険制度というのも消えかかっております。ピーク的时候は1986年でしたけれども、2万4,000人も人があいりん職安で手帳をつくっていたのですが、それが90年代に入り1万5,000人になり、2000年代になるとさらに減り続けて、今は何と1,500人しかつくっていない状況があります。もしもここまでこれが破壊されなければ、今、社会で西成は生活保護が多いと言われてはいますが、特にその中でも稼働層までが生活保護にいてるような状況もあるわけですが、実はそういうふういきなり間を抜いて、最後

のセーフティネットである生活保護申請に走ることはなかったのではないかと思われるんです。そういうふうに国の責任と国の資金を撤退させてはいけないというようなことも言えると思うんです。

2点目ですが、逆に「どうしても引き継ぐべきもの」があると考えております。これは、率直に言ってまちづくりに対して警戒する人たちも多いです。というのは、まちづくりの概念というのがハードでクリアランスされるというようなイメージですから、それに対して、そうではなくて、これまでのこのまちのよさを引き継いだまちづくりであるのなら賛同できるということは、私たちはもうあちこちで確認しております。体感しております。

そのよさとは何だろうということを考えてみたんですが、2つに収れんするのではないかなと思っているんです。1つは、「多様な人々を受け入れる懐の深さ」ですよ。包摂力。それと寺川さんの報告にも出ましたけれども、「天然のコレクティブタウン、気さくな独特のコミュニティ」ですよ。このよさをとにかく引き継いでほしいというのが願いです。だから屋台プロジェクトというのは皆が乗ってくるわけですよ。そういう大がかりな、うまくコントロールされた屋台村ができれば、楽しいですから、そこでいろんな社会的な起業も起こすことができますし、若者も呼び込むこともできますから、そういうのが目に見えるようになると、人々は参加してくるだろうと私たちは思っております。

3点目ですが、「これだけは守る、こうなら変われる、でもこうは変わらないということをはっきり言うこと」が必要なんじゃないかなと思っております。

それから4点目は、これは我々は得意なんですが、「今あるものをどう使い直すか」の観点から、「長所を利点としてとらえ直して、それを使い直す」ということですね。典型は簡易宿泊所の存在でした。それから、西成市民館だってぼろぼろです。エレベーターもついていませんけれども、とにかくその限られた条件の中でやっております。そういういわばしたたかさというのがあるわけですから、そういうような発想で逆提案をしていくほうが説得力があるんじゃないかということです。

それと、5点目は、「うんと夢のある新しいものをこの地に力強く育てる」というのが絶対大事です。人々が参加したくなるようなものを提案し、みんなでやっていくということですね。それが大事だと思います。このまちにふさわしいものを接ぎ木すれば、再び力強く伸びていくと思います。

それから、わかりやすくなければいけないだろうという議論もしています。あいりんの内側には内側の論理があります。そうならざるを得ないんだというのがありますがけれども、

それはなかなか通じないところがあります。わかりやすい言葉で、わかりやすいスローガンで、キャッチコピーを考えて出さなきゃいけないだろうとっております。

今、言いました考え方を表にしたのが次のページです。この表の見方は、下から、「地域存立の前提を成すもの」とまずありますよね。そのための課題、「失ってはいけないもの」というのがあります。例えば、さっき言った寄り場とか特掃、雇用保険、生活保護制度、社会的な包摂力。それから「利点として活用すべきもの」。これも今言ったとおりありますよね。それから「支援団体とノウハウの存在」もそうですよね。「簡宿群の存在」もそうです。それから「ゆがみを修正すべきもの」として、「持続不可能な人口構成」。これは本当に絶望的ですから、これは修正しなきゃあかん。それから最後に、「新しく付加するものを育てる」ということですね。それで、その右隣りがそれぞれの「解決の方向性」ですね。「安心安全」、この辺はごめんなさい、ちょっともう割愛しますが、「解決の方向性」を打ち出して、なぜかということで「その理由」も書いております。

最後に「具体案」と、「その効果」というのを出しております。下のほうから行きますと、皆さんはその資料を見ておいていただいたらいいと思いますが、あいりん総合センターに関しては「建てかえて、西成労働福祉センター、それから市更相、医療センター、ホームレス就業支援センター等の一体的運営を目指す」と。国・府・市の壁を取り外すということですね。この際、府市統合ということですから、今までは発想しても壁にはばまれて、「おまえ何言うトンねん」という、「非現実的だ」という文句を言われていたんですけども、今こそこれができるのではないかと。これに私なんかはNPOも加えて、スーパーなトータル地域ケアというネットワークをつくれればいいんじゃないかなと思ってるんです。その拠点として、建てかえたあいりん総合センターで、そうしたことが可能なようにする、ということですね。

それから、その中身は労働施設に限定せずに、文化活動やつながりづくりなど多目的なものに使えるようにすべきです。管理は現在硬直した状態ですので、例えばあそこで、みんなに地域で人気のあるたそがれコンサートとかを持っていこうとしても、それは持っていけないです。労働施設だからということで。実はコンサートに使ってほしいという要望はほかにも来ているんです。ここは我々の言い方で言えば「ひろば」なんです。コレクティブタウンの広場。みんな、ここへ来て、緩やかな、みんなとの交わりをする場所なんです。そういうのがあるのがこのまちのよさなので、そのためにあいりん総合センターは機能を果たし続けてほしいという、そういう案なんです。

それから、こちらのほうでは生活保護の問題ですけれども、この特区的な発想で生活保護の人たちに現物支給は現物支給でも、「仕事を出す」という現物支給をやったらどうなんだと。そのための資金は生活保護の予算から使えることにしたらどうなのかという提案ですね。ただ、「まちづくりひろば」で出てきた意見では、生活保護の問題は生活保護の枠内だけでとどめないで、もっと広いところで議論したほうがいいということで、雇用保険の中に何兆円も積み立てているお金があるようなので、11兆円でしたっけ、それを使っていったらどうなのかというような案も出ています。

それから図表の上のほうに行きまして、「空き店舗の活用」ですね。これにNPOとか、いろいろなものが使えるようにすると、そういうことをするためには、上のほうに飛びますけれども、土地とか建物を流動化させる必要があります。そのために「まちづくり公社」をつくったらどうだというようなこともあわせて言っている案ですね。

それから、外国人宿街が広がっていています。これは間違いなく広がっていくでしょう。実はそこにベッドメイキングという仕事ができるんです。ここをあいらんの建設業以外の、しかも地域で創出される雇用ということで、一つのモデルとしてつくれるのではないかというふうに思っているんです。これは実は一度追求したことがあるんです。西成労働福祉センターのほうから簡宿組合と協議に入ったんですが、センターのほうの内部問題でとん挫した経過があって、これは大阪府とか西成労働福祉センターが本気になれば、実現できる課題です。だからこれはモデルとして進められないものかなと思っています。

あとは書いてありますように、「長距離バスターミナル」をつくったらどうかと。、それだと「旅人のまち」にふさわしいんじゃないかということですね。「良さを引き継ぐ」ことになるんじゃないか。若者だって入ってくるのではないかと。

それから、これはあえて言わせてもらいますけれども、あいらん連絡協議会というのは国・府・市・警察で構成されております。1960年代にできましたけれども、私は将来的にはここには住民組織が入らなきゃいけないと思っているんですよ。ただ、今の状況では確かに力不足です。でも、ゆくゆくは目指さなきゃいけない。この座談会は20年先を考える場ですから、そこは目指すべきだと思ひまして、消さずに残しております。だから、国もきちんと国費を投入すべきだというふうに書いています。

そういうことで、あとは若者とか社会人をいろんなかたちでエンパワーメントするインキュベート拠点に萩之茶屋小学校の跡とか、その辺の空いているものを活用して作っていく必要があるという提案です。

最後は、さつき屋台村のことは言いましたからもう省きます。

そういったことをハードの面で進めていくものとして、「まちづくり公社の設立」が必要なのではないかということもここで提案させていただきます。

以上かなり長くなりましたけれども、そういう議論の積み重ねをしております。さらにそれをどのような内容に具体化していくのかという作業に、多くの皆さんが参画していただきたいと思います。ありがとうございました。

○鈴木座長　ありがとうございました。

それでは、これから議論をしていくんですが、少し留意事項というか、そういうことを申し上げてから議論に入りたいと思います。

まず、今回、再生フォーラムと、（仮称）萩之茶屋まちづくり拡大会議の2つのご報告をいただきました。西成特区というのはこれだけじゃないだろうというふうにお感じの住民の方もいらっしゃると思います。そして、あいりんでもこの2つが代表じゃないだろうというようなお声もあると思います。それはそれで西成全体の話もテーマごとに、あいりんだけではなくて西成全体というお話もこの座談会ではいたしますし、あいりんでもこの2つがすべての代表だとは思っておりませんので、例えば労働者の声とか、いろんな声を受け入れる形でここでは議論をしていきたいと思いますので、今日はなぜこの2つを選んだかという、どうしても西成特区といえはあいりんの問題というのが一番まちの問題というのが大きいので、議論の中心として今回これを発表していただいたということで、これで全部だと思っているわけではないというのが注意点の1つでございます。

それから、今日は膨大な情報量が前回に引き続き出てきたわけでございますけれども、やはり忘れてはいけないのは、この膨大な蓄積は既にあるということですね。そして歴史があるということでございまして、最初、私が橋下市長にどうやって西成特区を進めていきましょうか、どんなアイデアをどこから出しましょうかというようなことをお尋ねになられて、いえいえ、もう全部まちの中にありますと。ものすごい具体的なものは既にありますので、それをもっと具体化するとか、事業化するとか、順番を決めるとか、段取りを決めるとかというようなことでも相当なものが進みますというようなお話をした記憶があるんですけども、このように膨大な蓄積が既にあって、そしてかなり練られているということでございます。ですから、この座談会としましては、この上に乗るとするか、ありむらさんの言葉を使えば、接ぎ木の上に乗るとかという感じではありますけれども、この財産を生かさぬ手はないので、全然別なことを考えるんじゃなくて、この上にまた新しいアイ

デアを入れてということで議論をしていきたい。

そして、これだけ詳しい方々がメンバーに入っている、もう一つの意図は、ここは自由な議論をする場なんです、かといって地元と会議するわけにもいかない、ここの議論が地元ともちゃんと連動しているということを担保するためにこういう議論があり、こういうメンバーが選ばれているということでございます。

この先の進め方は、残り30分ぐらいなんです、個別のテーマ、今回はお互い、みんなベクトルは同じ方向を向いていて、ちょっと違うところもありますけれども、かなり大きな部分はベクトルは同じだということがわかるわけでございますけれども、個別の論点を具体的にしゃべっていくということだと、もう時間が全然足りなくなると思いますので、それは個別のテーマを議論するときにもっと具体的な話をしていきたいと思っております。

ですから、今日はこういう2つのご報告を踏まえて、今後、この座談会としてどういう議題を話し合っていくか。あるいは議題はどういうのが足りないとか、どういうのが要らないとか、そういうのがあると思うんですけれども、それとともにどう進めるかですね。どういう段取りで進めるか。はっきり言って、順番が結構ないような、だだっとした議論も多いので、どう議論を進めていくかとか、あるいはこの場で議論するだけじゃなくて、何かこう具体的なまちとの連動が必要じゃないかとか、そういうようなこれから議論を進めていく上で、今日のご報告を踏まえてどういう点が足りないかとか、どういう新しい点を入れるべきかということで今後の議題案を話し合うという、その目的に向かってちょっと議論をしていただければというふうに思います。

それでは、どなたからでも構いませんが、ご意見がありましたらお願いをいたします。
○委員 今日、お二人の委員から地元のいろんな声、そしてまた地域にこだわらない、外部の方々も参加した形で、過去10年、あるいはそれ以上にわたって、このまちをいかに再生していくのかということで非常にたくさんのいろんな知恵が蓄積されているということをご報告いただいたかと思っております。

そういった事例とか知恵について、行政サイドのほうとしては余りきちっと把握していないという印象を正直持っています。行政の側は、もちろん行政独自でいろんなプラン、計画を立てる必要もあると思うんですけれども、地域と改めてつながるパイプをつくる、そういうことが非常に大事だと思うんですね。先ほどのご報告にもありましたように、大阪市としてはスピード重視ということで施策を進めようという考えをお持ちで、それはもちろん行政組織としては当然だと私も理解しております。

しかし、一方で、地元の意見を丁寧に拾うというのは、相当時間のかかる話ですよ。そのあたりを具体的にどのように折り合いつけていくのかという点が、質の高い住民参加という観点から見たときに非常に大事だと思います。これは、一つの課題であるということ提起したいと思います。この点について、市として何か考え方を持っていていられるのか、もし座長のほうでご存じであればお聞きしたいと思います。

○鈴木座長 ありがとうございます。大変重要な論点で、まさにそれをこれから具体化しなきゃいけないと思うんですが、一応今の段階でほぼ決まっているのは、この有識者座談会だけじゃなくて、区民フォーラムのようなものを開催をいたしまして、そこでまちの声を拾うということを検討しておりまして、具体的な段階になっており、どういう日付でどういうふうにするかということは今話し合っているところです。

それから、この有識者座談会というところでも相当なお声を拾うことはできる部分もあるというふうを考えておりまして、具体的には、この座談会は調整の場にはしたくないと思っておりますので、それも本当に時間がかかってしまいますので、調整の場は別途考えるわけですが、まずこれを報告書という形で、ここで具体案を、本庁の西成特区構想プロジェクトチームに対して提案をします。提案をして、それを具体的にやる中において、もう一回地元の方との調整を。つまり、ここは最初に申し上げたようにレシピをつくるだけなので、料理するところではないので、料理をする段階でもう一回地元の方々と話し合いながら調整をするというようなことを漠然と考えておりますけれども、それだけじゃ足りないんじゃないかとか、そういうお声がありましたら、もっといろんな方策を考えていきたいというふうに思っております。

○委員 ということは、これからプロジェクトチームの案というのが、ここで報告があったり、資料が提出されて、それについて今回のこの議論をつなぎながらというか、課題とかが明らかにしながら具体的に提案するというイメージですか。

○鈴木座長 こういうことなんです。非常に西成特区構想がわかりづらくて、いろんな動きがあって、別々に動いておりまして、この有識者座談会という、平成25年度からスタートしようという大きな構想を練る座談会があります。それから、24年のうちに進められるところは進めていこうということで、大阪市の各局ができることというものを提案して、今、補正予算をとって動き出しているところです。そして市政改革PTというのが、西成にもかかわること以外もやっていますけれども、かなり重要なことをばさばさっと決めておりますので、3つ動いていますので、非常にわかりづらんですが、西成特区構想

の本庁のほうでやっているP Tというのは、何もここと対立するものを出してくるというわけではなくて、とりあえず平成24年度の予算で出して、25年度に向けても少しここでやったらいいんじゃないかと動いておりますが、いわゆる大きな構想として提案するのはこの役割です。ですから、この大きな構想を、各局に対してこういうことをこれから考えていきたいんだということで、各局とそれから西成区とともにそれを具体化するというのが区と市の各局の役割なので、そこを今の動き出している延長にあるわけじゃなくて、この大きな構想を、むしろ市の本庁のほうの各局の幹部がいるところにぶつけて、これを具体的にやってくださいというような、むしろそういうような考えのもとに進めていこうというふうに考えております。

ただ、ちょっとつけ加えると、とにかくスピードが重要で、平成25年度の本格予算で動かないといけないものですから、ここがとにかく最後の結論を出してから動いてくださいというのではもう遅い可能性があるのも、その最後の結論を出して動いてもらう部分もあります。ですから、ここで結論が出た後に、ちゃんと市のほうの構想P Tのほうの第3回というのを用意してありますので、そこで報告するようなことになっているんですけども、その前の段階でも、もうこの方向で決まって、こういう方向でいきたいというものに関しては、もう前広に各局と相談しながら具体化できるところは具体化していくというような、そういう段取りを考えております。そこで重要なのは多分、見えないところでやるというのが問題だと思いますので、どう見える化するかということもここで少し話し合いながらやっていきたいというふうに思っていますが、その辺は少しお知恵をいただきたいということです。

○委員 理解としては、要は本庁の役人の方々、余り多分現場のことをご存じないので、現場のことを広く知っている人間が、さっき言っていたみたいに換えられること、変えてはいけないこと、新しく変えていくべきことみたいなのをわかっている立場から、長期的なビジョンでこういう方向に進みますよというのを考えて、向こうへ返すというイメージですね。

○鈴木座長 そうですね。

○委員 その途中で僕らがある程度考えたことが、本当にその地域の人にとって納得できるものかというのを一回地域に返して、もう一度聞くという感じですね。

もう一つ、考えていけないといけないと思うのは、地図が後ろにありますけれども、空間ベースでいろんなものを考えていかなければならないことがあり、もう一方で生活保護

の仕組みとか制度面の問題があると思うのですが、こちらの方はもうちょっと一般性を持つ課題だと思うんです。だから、空間ベースで考えることと事業ベース、もしくは仕組みのレベルで考えなあかんことを仕分けしてやっていって、その中でせつかく特区ということなので、恐らくいろんな大阪市レベルでできる規制緩和みたいな、できる工夫があると思うんですね。そうした工夫をいっぱい、これができたらええのに、あれができたらええのに、これが障がい、あれが障がい、と並べて、市のレベルで、これをこう変えたらこれができますよみたいなを出していったらいいのかなというイメージを持ったんですけども、そんな理解でよろしいですか。

○鈴木座長 そうですね。空間と仕組み、事業という軸が要りますね。それからもう一つ、時間の軸も要りますね。何をどの順でやるかというのは、間違えたらいけない部分もありますので、その3つぐらいが多分ここでの議論で必要になる、ちゃんとやらなきゃいけない点かなというふうに思います。

それから規制緩和の話で言うと、大阪市レベルの条例とか、そういうところできるところはもちろんありますし、それから別に私は特区申請はまだ国のもとで生きていますので、これを出す選択肢も別に引っ込める必要はないというふうに思っております。

ほかにいかがでしょうか。

○委員 住民の声を聞くという場を持つということで、時期的にいつとかいう、具体的なスケジュールはもう既に決まっているんですか。

○鈴木座長 いや、これもご相談して決めようと思っておりますが、ただ、おのずと物理的な限界があります。つまり9月末にこれを出そうと言っていますので、その後というのは、ちょっと順序としてどうなのかというところがありますので、その前になると思います。

ただ、最後だけというのではちょっとどこまで反映できるのかという声があると思いますので、もう一回、多分8月の末とか、それぐらいのところで考えるべきではないかというふうに思います。

○委員 その住民の合意という場合は、この座談会、それとも市のPTのほうなんですか。そこはどこが受けて、行政サイドとしてはどこでしょうか。

○鈴木座長 私は、それはどっちがいいというのはご議論いただきたいと思いますが、私はこの有識者座談会でいろいろ話し合った結果をもとに、地元の方とこういうことでいいのか、あるいは足りないのかということをお話し合うというような区民フォーラムを

考えております。区だけじゃなくて市も、そういう構想のほうもそれをやるべきだということであれば、私の権限を超えるところがありますけれども、提案することもできます。

○委員 質問ですけれども、行政側の権限はここに入っているのか、行政側の権限はどこにあるのかということですね。この座談会は西成区長さんの主催するような形ですよ。

○鈴木座長 いや、違います。私、座長が。

○委員 座長が主催と。

○鈴木座長 そうですね。

○委員 そのあたりがちょっとわかりにくいんです。西成区の話で西成区に権限移譲、区長にかなり権限移譲するというふうな話もある一方で、その西成区の問題は全市的な重要テーマということで、もちろんそれで確かに鈴木さんは顧問で入っておられるという部分もあるので、結局どういうんでしょうかね、政策決定の手順が、いろんな機関がいろいろあって、さっき説明がありましたけれども、結局最終的には市長という話になるんですかね。

○鈴木座長 私の理解でということでお答えします。これはおっしゃるとおりで、なかなかこうですというのが、行政のどこにどう権限があって、どこに意思決定の機会があるかというのは難しいところではあるんですが、私の理解でということでは申し上げると、市長が決断する部分もありますけれども、基本的には区長に任されるという発言を市長はされています。ですから、区長のところでほぼ決めていって、最後の決断みたいなところを市長に上げてくれというような形になっていますので、基本的に区長にいろんなアイデアなりを提案するという形になると思います。そして、この座談会が担っているのは、まさにそういう部分が一番大きいと思います。区長が基本的には市の各局と調整、横串を入れていくというような役割だというふうに認識しておりますが、これはもう同時並行でいくかかないと思いますね。ここで話し合ったことを区長のご判断もいただきながら、市の各局と連携できる場所はお互いに調整し合うというようなことをやっていく。やっていかないと、多分時間的にそうせざるを得ないと思うんです。

はっきりしているのは予算なんです。予算の話は、もう平成25年度予算は9月末ぐらいから、というか、もう9月の初めぐらいから多分動くわけです。そして西成区独自の、要するに西成特区用の予算というのが西成区にあるわけではないんです。西成特区でやるべきことは、各局でそういう予算をとっていただいて進めなきゃいけないということなので、まさに難しいですね。日本的な意思決定という感じもいたしますけれども、横串を入

れていきながら、しかし大きな方向のもとに皆さんのベクトルを向けていくというような、そういう感じというのは変ですけれども、そういう感じで、トップダウンでどこが決めて、だれに情報が入って、だれが決めるということでもやらない。基本的には西成区長に情報が集約されて、ご決断いただいて、それから市長に上がって、市長もご決断いただくというような、ちょっとわかりづらいですね。

○委員 今後、9月までにいろいろとここで議論することを行政側とも、あるいは住民、あるいはいろんな支援団体、あるいはいろんな施設の関係者等々で、ある種コンセンサスが得られるということは非常に重要なのかなという感じがしておるんですね。そのコンセンサスを得る儀式として、先ほど出た区民フォーラムというのがあるかと思っています。

ただ、今日のお話を僕なりの理解で言うと、あるいは解説というようなものかな、それで言うと、この地域、あるいは萩之茶屋小学校区、あるいは今宮中学校のエリアというのは、町会と行政という、ふだん考えられるような一般的な仕組みとは全くかなり違う、支援団体、施設運営者の方がたくさんおられるという中で、ものすごく力関係が交錯していたところをこの10年間で解きほぐしていただいたというのが、今日のお話の肝かなという感じがするわけで、その中でどちらかという、NPO、市民団体、運動系の人たちが最初にイニシアチブを握って、町会の方々も入ってきているというふうな図式がこの3年あると。

この9月までに是非ともやっていただきたいのは、ここまで仕組んだことを、積み重ねてきた成果、プロセス、時間というのをトップダウン、あるいはミドルダウン的に覆されないような、合意というか、コンセンサスみたいなものをこの3ヶ月の間にとるべきなんだろうなという感じがしているので、それが区民フォーラムなのかなというのと、もう一つ何か間に、ここでの議論をもうちょっとオープンにさせていただいて、ある程度納得する中で変えていくというのが、区民フォーラムの一步手前にあっていいんじゃないかなと。

それから、寺川さんが言われた40主体ヒアリングは、300ぐらいの関係者がおられる、すごい地域なので、この辺の合意形成というのをきっちりやっていただく。ですから、ここに出てこられたいろんな方々のこのフォーラム、拡大会議のアクターというか、出演者の方々に、やはりどこかで一回ぐらいやったほうがいいんじゃないかなという感じがつくづくして、その次に区民フォーラムというのもあるのかなというような思いがちょっとしたんですけれども。

○鈴木座長 なるほどね。区民フォーラムの前の段階の何か、中間段階の。

○委員 この地域でやったことをもうちょっとお互いにこの場で確認し合うとか、けんかすることはないと思うんですけども、やったほうがいいんじゃないかなと思ったんですけども。

○鈴木座長 わかりました。ちょっと検討してみたいと思います。

○委員 基本的には、これだけの積み重ねがあるということは、提案もかなり含まれているので、この懇談会の報告書というの、これは住民の今のところの有力な意見ではあるので、基本的にはベースにつくっていったらいいんだろうと思うんです。鈴木座長のこの間の提案ももちろんありますけれども、少し議論が必要な点と、大体合意形成できているよねという点とを分けしたほうがいいだろうと。さっきおっしゃったように、これとこれは両立しないよというようなものもあるでしょうし、こういう方向性は反対だという意見が存在するというようなものもあるでしょうし、大体みんな合意しているようなものというのが、先ほど何段階かの会議をする場合も、余りそんなところで繰り返しやる必要もないんだろうと。共通認識にはしたらいいですけれども、意見が分かれたり、もっともむ必要があるものというのを絞り込んだほうがスピードは速くなるかなと思います。

○鈴木座長 そうですね。ご提案は大変よくわかります。どうでしょうかね。私の最初の考えは、区民フォーラムもありますけれども、各テーマでここで議論しますときに、オブザーバーとかスピーカーという形でまちの方も入っていただいて、主なオピニオンリーダーがいらっしゃいますので、その声を反映しつつ、ただ専門家なので、その具体化とか、事業化とかいうことはこっちもサジェスションをする。そこでも随分意見がお互い入るだろうというようなことを考えていたんですけども、ただ、難しいのは、調整の場がすごく色濃くなってしまうと。もう全く進まなくなる可能性が、この議論自体がそうなるので、そこは何かもう一度整理したいと思っています。だから、なるべくスピードを。ゆっくりやるコンセンサスづくりも大事なんですけれども、ここでの議論はやっぱりスピード感を求めている部分もありますので、そこのバランスをどうするかですね。ぱっと答えられはしませんけれども、ご意見いただいたことは大変重要な点なので、少し考えてみたいと思います。

○委員 ちょっと違う観点で少し意見を述べたい。西成あるいはあいりんの改革ということで、各局がいろんな事業を実施するという文脈で今お話しされていると思うんですが、それは行政主体にいろんな事業をやっていきますよというふうに、我々は受けとめがることになると思うんですよね。それはもちろん、一方では大事なんですけど、他方で、この地域

はいろんな社会資源というか、いろんな活動をされてきた実績のあるところもいっぱいあるわけで、そういった活動をさらに一定評価して推し進めることも必要だと思います。要は、これらの活動をバックアップするような形でのお金のつけ方の必要です。新しいプロジェクトで応募型の、事業の展開といったものもあっていいんじゃないかと思います。

ただし、地域の団体間の競争をあおることになって困るんですけども、これまでの実績を踏まえて、適正なところに資金が回りそれがこの地域で共有できるようにすること、それに合わせて行政から地域のいろんな活動を育てていくようなお金のつけ方とか、そういうふうな発想が大事なんじゃないかと思います。

○鈴木座長 ありがとうございます。ここで何も全部それを具体化する必要はなくて、むしろアイデアを提案してもらって、その枠づくりというような感じですね。というような発想も必要だということですね。

それから、さっき言い忘れたんですけども、市だけじゃなくて、できればここは府とか、それからまだラブコールは送っておりませんが、警察の方にも来ていただくような、要するに市の枠組みを超えた会議体になりたいと思っていますので、それは多分市の特区PTではできないことなので、そういう意味でも市だけががちがちと固める枠じゃない部分をとっておきたいというふうに考えています。

○委員 今のご発言に絡んで、労働行政の部分は国が持っていますよね、基本的には。府というのは、ちょっと地域の雇用の部分を、雇用促進のことはやっていますけれども、基本、雇用対策は大阪労働局なんかにあると思うので、それはちゃんと呼んでもらったほうがいいんじゃないかなと。例えば、今のあいりん職安が結局、職業紹介業務をやっていない、西成労働福祉センターが実際やっていますというようなこともあって、そしたら、本来国が出すべき財源はどうなっているんだ。そこがよくわからない。国は出しているのかもしれないけれども、そこら辺がよくわからないですし、責任をもつとか、参加するとか。

○鈴木座長 ありがとうございます。検討しておきます。

○委員 すみません。先ほどからの話の中で、具体的にというところで、お二人の委員のお話を聞いている中で、いろいろと生活のお手伝いをしているときに、大体、中身というのは生活支援というのが中心ですよ。そこには医療支援というところの部分がものすごく欠けている。結核の問題とか、精神障がいの方々の問題とか、その辺のことをどう組み入れていくのかというところを、今後の議論の中にきちっと入れていかないと、いろんな

意見の中で、そこに住んでいる方々の生活の安定をどうつくっていくかというのは、生活支援と医療支援という二本立てがないと。そして、そこに落ちてきたら、次はその方の趣味、もしくはいろいろ活動の場、居場所というところも出てくると思うんですね。その居場所を支えるにも、その2つがきちっと成り立たないと次に進まない。だから、その辺、今後の議論の中でどのような形でやっていくかというのにも必要なと思っています。

○鈴木座長 ありがとうございます。私が挙げている議題の中では医療支援というのがちょっと足りない感じですので、少しそこは手厚めに議論をしたいというふうに思います。

内容についてはいかがですか。ここが足りないんじゃないかとかいうようなことがもしあれば。

私が感じたのは、子育て支援のところで明らかに、要するに特区構想なので、子育て世帯を呼び込むというような、そういうポジティブな子育て支援というところの議論は割と想定しているんですが、もっとこどもの里がやっていらっしゃるような、貧困なご家庭のお子さんとか、いろいろ問題があるご家庭のお子さんの支援とかネットワークという意味では、一応議題に書いてはありますけれども、もうちょっと何か濃さが足りないという感じがいたしますので、もう少しここは拡大会議とか再生フォーラムのご提案になったものが、具体的なものがありますので、それをもとにもうちょっと手厚い議論をしたいというふうに思っております。

○委員 鈴木先生がお示しいただいた1ページから2ページにかけての議題、ちょっと欠けていると思うのは、住宅政策とは別に、老朽化している市街地の問題なんかも一本立ててもいいかと思えます。もう一つ考えておかないかと思うのは、個別の議論に入っていきますよね。するとどんどん大きな方向性とか、まちづくりの戦略とか思想というのが見えていかなくなるので、さっき言っていたコレクティブタウンみたいな話とか、大きな方向性ですよ、まち全体をどう持っていくか、それを意識しておかなあかんと思いません。おそらくあいりん地域の中で、いろいろ地区の方向性がすでに分かれています。太子と萩之茶屋は違うし、山王も違うと思うんですけれども、個別の議論とマクロなところで、この地域はどういう戦略でいくかみたいな話もしないかんでしょう。それで大きな方向性を決めて一枚のマップの中に落とし込んでいって、具体的にこの議論はこの辺に落とす、この議論はこの辺に落とすということを考えていかなだめな気がしています。この大きな方向性を意識しながらまちの個別の課題を解決していって、個別論に入っていくのはいいんですけれども、その後でもう一遍全体に戻って、それがこの空間の中でどこに入ってい

くかということと、まち全体の思想や方向性としていいのかということを見ていかなあかん気がします。そのうえで先ほどから議論されていたみたいに、守るべきものと、維持すべきものと、新しく生み出していくものみたいなのを仕分けして、将来的にはこっちの方向へもっていきますよというのが、やっぱり長期計画というか、長期の思想の中には要ると思うんですね。逆にそこをちゃんと出しておかなかつたら、個別の中にずぶずぶと入ってしまい、大きなところが見えなくなってしまう気がします。だから先ほど言ったみたいに空間ベースで考えるもの、事業ベースで考えるもの、これをうまいこと長期計画の中に放り込んでいく。ちょっと大きな話にもう一遍戻す、もしくは個別の議論をする中でそれを意識していただくというのが必要かなという気がします。

○委員 今のお話は、実はまちづくり会議の中でも非常に何回か出てきた議論なんですね。多分、いろいろな違いのある中で議論してはるでしょう。だから、共有できる大きなテーマにいつか戻れるような、ずれていっても戻れるような、その部分はやっぱり共有しておかないといとけないというのがこの間の議論だったんです。それを受けて、かなり具体的に個別の事業を、制度とかいろんなものを見直しながらどこまで実現するかという。

○委員 これも本当に、あいりん地域の中でいろんな事情があるので、コレクティブタウンがふさわしいと。ここは絶対コレクティブタウンにするという部分があれば、本当に古くから住民が住まわれている地域もあるので、またこれは話が別やと思うんですね。だからその辺も個別の議論に入っていくながら、これはこの辺の話でこういうふうな方向性でみたいな、何かそういうのがいいような気がしています。

○鈴木座長 大変重要なお指摘、ありがとうございます。大きな事業というのは大きな話から始まって、個別のテーマに入っていきますけれども、もう一回大きなテーマに戻すと。そして戻して、なおかつそれをどういう順で、どういう事業化をするかというような工程表みたいなところをつくるという作業があるべきだと思います。3つラウンドがあるという感じですね。議論をしていきたいというふうに思います。

ほかにいかがでございましょうか。

大体これで時間もちょっと超過しておりますけれども、議論は収束したということで、いろいろ宿題をいただきましたので、それをどう反映するかというのを考えつつ、次回は松村先生のほうから国際観光、それから国際ゲストハウスと、それから屋台村というような話から入りたいというふうに思います。

あと、この間、あいりん総合センターについて報道が幾つかされておりまして、ちょっ

と誤解を招くような報道もありますので、そして、ここであいりん総合センターの話はかなりしっかりやらなきゃいけないので、解説を1分ぐらいさせていただきたいんですけども、まず、あいりん総合センターの話は市長から3つぐらい大きな方針をつくってほしいと言われていまして、この会議体では主にソフトですね、先ほども2つのご報告でかなり具体的な中身をどうするというお話がありましたが、その建てかえ、単なる建てかえじゃなくて、どういうものをつくって、そこにどういうソフトを入れていくかということがあって、そしてハードをどうするかという議論がありますので、ここではソフトの話これから議論を詰めてまいりたい。そしてハードも含めまして、どう建てかえをするかとか、建てかえじゃなくてどうなのかとかいうことを具体的に詰めていきますので、ここで主な議論はいたします。ですけれども、この話がややこしいのは、あいりん総合センターがややこしいのは、市だけで決められるものだけではないということで、府も入っていただかなきゃいけないし、それから委員がおっしゃったように、国も入らなきゃいけない部分がありますので、まずこういう話し合いをやりますよという段階で、今、本庁のほうで、あいりん総合センターについての分科会というような議論がスタートしております。それは先日の25日にそういうことをやりますという発表はもう既にしているところなのですが、ここが主に今ハードの議論をしています。ですから、ソフトじゃなくてハードとして、これからソフトの議論はここで出してくるわけですが、その自由度を余り奪わない範囲で、しかし予算を25年度に動かすためには、もう既に府とか国とかの間とも少しお互いに動いているんですというようなことで、話し合いをちょっとスタートさせなきゃいけないものですから、ハードの議論をしている段階です。

その中で幾つか選択肢があって、今のところ有力なものは少し移転を考えるような案がいいのではないかというようなことを議論をしている段階ですが、決まってはいません。ですから、決まったように報じられているような報道があるとしたら、これは誤報でございますので、違うと。あくまで、この有識者座談会と、それから本庁の分科会と、そして改革PTとの間で、これから煮詰めていって決める段階であります。そして、この座談会で重要なのは、地元を置いてきぼりにするような考えは全くありませんので、今日も来ていましたけれども、地元のアイデアみたいなものはソフトの面、ハードの面でいろいろこれからまだ地元の方とも話し合いながら、この有識者座談会で議論をしていきたいと思っておりますので、まだ決まっていないという点だけご注意くださいというふうに思います。

それでは、今日は大変いろんな議論がありましたけれども、宿題も大変多いですが、ま

た第3回に向けまして頑張って議論してまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願
いいたします。

今日はありがとうございました。

○事務局 どうもありがとうございました。

傍聴いただきました市民の皆様方におかれましても、長時間ご清聴いただきまして、ど
うもご協力ありがとうございました。

次回は7月9日（月）の午後6時から第3回目の有識者座談会を予定しておりますので、
どうぞよろしく願います。

本日は長時間にわたりましてご議論をいただきまして、どうもありがとうございました。
これにて終了させていただきます。ありがとうございました。